



日時:2014年5月10日(土)おかやまオルガ5F

日程:10時~12時 学習講演

13時~分散会 分散会まとめ発表 16時閉会

地連パート部会主催の学習交流会を開催しました。午前中の学習講演では62名の仲間が参加、午後からの分散会には51名が参加しました。

「15歳からの労働組合入門」という本を出版された現役の毎日新聞記者東海林 智さんの講演は、非正規労働者の働かせ方から見える安倍政権の労働を物として扱おうとする政策をするどく批判しました。そして「労働組合はつながるから力が発揮できる、労働者は無力じゃない」と仲間を増やすことの大切さ、労働組合のストライキを含む闘いの大切さを訴えました。

現役の新聞記者という立場で長年非正規労働者を取材してきたことから、理不尽に使い捨てにされる若者への暖かいまなざしと社会への怒りが心にずんずん響きました。

昼休憩後の交流会では、4つのグループに分かれて交流しました。学習講演の感想を出し合った後、職場の問題や雇用問題などの情報を共有することができました。東海林さんの話は参加者の心に運動の確信を与えてくれました。これからの地連の活発な運動に生かされていくことが期待されます。

学習講演:「労働者から見る格差と貧困 ~安倍政権の労働政策~」 毎日新聞記者 東海林 智(とうかいりんさとし)さん



1944年のフィラデルフィア宣言では“労働は商品ではない”と宣言しているにもかかわらず、労働は商品であるという考えが広がっています。労働者派遣法は労働法ではなく、業法でありまさしく商品として扱っているのです。人を動かすために解雇しやすくすることが目的なんです。

非正規労働者は2000万人超になり4割に近づいています。ワーキングプア(年収200万円以下)も1000万人超です。ネットカフェ難民が10年前に注目されましたが無くなった訳ではありません。派遣会社の過当競争

で、派遣労働者の賃金は10年前に比べて下がっているため、収入が減りアパート代が払えなくなって路上生活になっています。住所不定の労働者にとって派遣会社とつながっているプリペイドカード携帯が命綱です。携帯の支払いが出来なくなると首をくくるしかないところまで追い詰められています。

ブラック企業は若年者を大量採用して3年後には残ってなくていい政策で、大学までお金を使って育てた子どもを心が病むまでボロボロにされて使い捨てされています。これを公害企業と言わずして何でしょうか。声をあげましょう。限定正社員を増やすことは非正規を減らすことにはなりません。正社員を限定に引き下げることが目的です。日本郵政では“新一般社員”を導入しましたが、非正規と正規の比率は変わっていません。安倍政権は労基法からはずれた労働者を作ろうとしています。

若者の使い捨ての公害企業や減らない非正規のしくみがあります。労働組合で重要なのは職場での

発言権を確保することです。仲間がいるから発言でき、労働条件に関与できるのです。

労働組合はストライキまでして闘うべきです。全てを使ってこそその権利です。スト権を背景にしない労使交渉は物乞いと同じだという言葉がある程です。つながって力を発揮しましょう。



62名の仲間が部屋がいっぱいになりました



分散会

